事例No.	2168
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	奈良県葛城市

事例区分	DX

タグ	・福祉・介護 ・AI ・ICT

事例種類	孤独・孤立対策

事例内容・タイトル

「人」と「日常」と「AI」の融合～AIを活用した相談システムの構築～

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

188「人」と「日常」と「AI」の融合～AIを活用した相談システムの構築～【奈良県葛城市】

事業の概要

【AIを利用した対人相談に繋げるためのシステムの構築と実践】

○ GIGAスクール構想で配布されている1人1台の端末を利用し、**学校生活の一部**にAI相談室を利用する時間を組み込んでいる。
○ 子どもが選択した表情のアイコン、入力した日記、アンケートなどについてAIが解析を行い、リスクの早期発見に役立てている。
○ AIに見守りをさせるのではなく、あくまで人に繋げる入り口としてAIを用いている。



【子ども側】
○ アイコン、日記、アンケートに加え、SNS相談を利用することができる。
【学校側】
○ クラスの子どもの気分を一覧で確認することができる。
【運営管理（こども・若者サポートセンター）】
○ 実施利用は学校で行い、運営管理は臨床心理士が多く所属する「こども未来創造部こども・若者サポートセンター」が行う。
○ **臨床心理士**がSNS相談を1件ずつ確認する。
○ 必要に応じてAIに代わり、臨床心理士が返信をする。
○ 一度発行されたアカウントは半永久的に利用するこができる。中学卒業後もAI相談システムを通して、切れ目のない支援と関わりを可能にしている。

※ 葛城市こども・若者サポートセンターは、福祉と教育の協働を目指して**妊娠期から40歳までの切れ目のない支援**を目指して設置された画期的な組織である。

【参考情報①】 人口：3.8万人
関連URL：https://www.city.katsuragi.nara.jp/shisei/tokei_johokokAI/3/5625.html

【参考情報②】新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金（厚労省）とは
URL：https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/21syokanyosan/dl/gaiyo-09.pdf

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー


（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。

誰にも相談することができず、不登校、引きこもり、そして自死にいたるという課題を解決したい。課題は**日常**にあるが、なかなか気づくことができない。そこで、子どもが日常的に使っている道具を活用し、まずは相談の練習の道具として「仕掛け」を作る必要があると考えました。


（葛城市）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？

イニシャルコスト約1000万円のうち**国庫補助金**（厚生労働省の新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金）3/4を活用しました。



子どもに**馴染みやすい工夫**で利用率アップを狙いました。例えば、ご当地キャラの蓮花ちゃんを使用しています。他には、相談を前面に出すのではなく**日常会話をメイン**にし、会話をし続けることで相談に向けた準備をしています。「相談しましょう」では二の足を踏んでしまう子もおり、利用率も増えないと考えます。その点、AI蓮花では1か月間のテスト運用、2022年5月からの本格運用で累計2000件以上の利用実績を上げています。



「機械に見守りをさせるのか」という批判もありますが、AIが人を助けるのではありません。AIを活用し、最終的には**人に繋げる**ことを目指しています。あくまでも支援の入り口のひとつにすぎません。そして、DXの相談支援への新たなチャレンジでもあります。



★担当：葛城市 こども・若者サポートセンター★

令和3年度事業費　9,900千円
（うち、新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金（厚労省）　7,425千円）